

オンライン方式による基礎ゼミナールの教育実践報告

三國 信夫

1. はじめに

本稿は、2020年度の短期大学1年生前期必修科目「基礎ゼミナールA」における、オンライン方式による教育活動を報告するものである。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に翻弄された一年であった。毎年実施される科目でありながら今年度について実践報告としてまとめる意義は、やはりこの新型コロナウイルス感染拡大の中でどのように授業が実施されていたかを、大げさに言えば後世のために記録することであると言える。社会全体が大きな影響を受けるという未曾有の出来事の中で、同様に大きな影響を受けた短期大学の授業科目の授業実践を記録しておくことはそれ自体に意義があると言える。そして、今後、たまたもし未知の出来事への対応を余儀なくされた場合に、こうした教育実践の報告が、何らかの指標になるのではないかと考えられるであろう。

一方で前期科目「基礎ゼミナールA」は、後期科目「基礎ゼミナールB」とともに、短期大学1年生の必修科目であるという点だけでなく、それが高校までのいわば「ホームルーム」のように学生生活の基盤ともなる点で、短期大学において重要な科目として位置づけられている。ゼミナール担当教員は、他の必修科目担当教員とは異なり、高校までのいわば「担任の先生」という性格を持ち、翌年に継続する「ゼミナールA/B」（2年生前期/後期必修科目）とあわせ2年間、ゼミナール所属学生の勉学のみならず就職や編入に関してまで全般的に指導する立場にある。したがって、短期大学の基幹科目と位置付けられることから、他科目ではなく「基礎ゼミナールA」を取り上げることに意義があると言えるだろう。

また、このように重要な地位を占める「基礎ゼミナールA/B」は、短期大学における初年次教育を実践する場としても期待されている。幅広い教養教育を実施するだけでなく、卒業後に社会で活躍するための「社会人基礎力」（2006年経済産業省が提唱、2017年に再定義）を身につける最初の場としての役割が期待されている。

本稿は、短期大学1年生の前期必修科目「基礎ゼミナールA」において獲得が目指される教育内容を整理した上で、それがオンライン方式による授業によって、どのように実現されたのか（あるいはされなかったのか）について事実を整理し報告することを目的としている。

2. 「基礎ゼミナール A」の授業の目的・目標

(1) シラバスにおける「基礎ゼミナール A」

従来の対面式による授業において、「基礎ゼミナール A」は、どのような授業目的を持ち、どのように実践されてきたかを見ておきたい。2020 年度においては、コロナウイルス感染症拡大のためにオンライン式の授業にせざるを得ない状況であったが、授業の形式が変更されたからといって授業の目的までは変更されてしまえば、短期大学のカリキュラムポリシー、ひいてはディプロマポリシーを逸脱してしまう事態が生じてしまう。そのためにも、2020 年度前期にオンライン式の授業を実施するにあたっては、シラバス記載の授業目的・目標を確認し、その目的・目標を逸脱しないようにオンライン式授業を計画する必要があった。以下、表 1 は、2020 年度のシラバスにある「授業の目的・目標」である。一方で、表 2 は、短期大学ビジネス総合学科のディプロマポリシーである。シラバスは、当然のことながら、ディプロマポリシーに基づいて作成されている。

表 1 2020 年度シラバス「基礎ゼミナール A (筆者担当)」における授業の目的・目標

<p>(1) 授業の概要 特別演習の基本レベル</p> <p>(2) 授業の目的 「自立した社会人として求められる人間力」の、応用的な力を養うことを目的とする。 人間力とは、①前に踏み出す力、②考える力、③協力する力、を指す。</p> <p>(3) 学習成果 社会人として必要とされる基礎能力、組織で働く協調性を身につける（協力する力）。</p> <p>(4) 授業の到達目標 社会の多様性に配慮して主体的にかつ協同的に実社会で貢献できる能力。</p>
--

表 2 ビジネス総合学科のディプロマポリシー (学位授与の方針)¹

<p>ビジネス総合学科は、「自立した社会人として求められる人間力」を基本的学習成果と定めています。「人間力」とは、具体的には 1 前に踏み出す力、2 考える力、3 協力する力です。また本学科は、専門的学習成果を「職業人として活躍できる幅広い教養と、英語、情報、メディア、会計、販売・接客、事務処理等のヒシスキル」と定めています。ヒシネス総合学科は、学科の所定の単位を修得した人か、以下の能力・態度を身につけていると判断し、短期大学士(ビジネス総合)の学位を授与します。</p> <p>① 社会人として必要とされる基礎能力および態度</p> <p>② ヒシネスの世界で働くマインド(集中力、知的関心、積極性、自主性等)</p> <p>③ 組織で働く協調性</p>
--

短期大学では、「人間力」を育てることを学習成果として定めているが、その人間力とは、3つの力で構成されているとしている。「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」である。

一方で、シラバスの学習効果に定められているのは、そのうちの「協力する力」である。なぜ、人間力を構成する3つの力において、他の2つの力に優先して「協力する力」の教育に筆者担当の基礎ゼミナールでは力点が置かれているのであろうか。「協力する力」が、短期大学の新生にとってより重視される理由を、次に説明したい。

(2)「協力する力」を重視する基礎ゼミナール

短期大学ビジネス総合学科が目指す「人間力」に、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」のいずれも欠かせないものはもちろんである。2年間で、そのいずれの力も身につけてもらう必要はある。しかし、短期大学に入学してくる学生を考えた場合には、まず、「協力する力」を育てた上で、それから「前に踏み出す力」や「考える力」に比重を移していった方が良いというのが筆者の考えである。以下に理由を述べる。

ビジネス総合学科のディプロマポリシーにある「人間力」の要素である「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」は、それぞれ2006年に経済産業省により提唱された「社会人基礎力」における「前に踏み出す力（Action）」「考え抜く力（Thinking）」「チームで働く力（Team Work）」に対応していると言える。そして、この社会人基礎力について学生を対象に調査した研究で、社会人基礎力得点を上位・中位・下位に分けると、特に下位に属する学生は全体的に低く自己評価をするタイプであるため、仲間同士で支え合うようなピア・サポート活動²への参加が日常的活動への積極的な関与の契機となり、効果的なのではないかと、という提案がある³。この調査分析によると、下位群の学生には「チームで働く力（Team Work）」に重点を置いた活動が、自己評価を高め、その他の力を伸張させる土台を形成することが可能になるという。

短期大学ビジネス総合学科に入学してくる新生は、4年制大学への入学が叶わなかった場合も多くあり、自信を失っていたり、そもそも勉強や授業といったことについて肯定的な経験を持っていなかったりする場合が多い。学生との対話でも、「勉強に自信がない」「友達ができないのではないかと心配だ」などの声も多く、先の調査で述べられた下位群に当てはまる学生が多いことが予想される。となれば、学生同士がお互いを支え合う「チームで働く力（Team Work）」すなわち「協力する力」を第一にした活動が、ビジネス総合学科の新生には有効だと判断し、基礎ゼミナールAの第一の目標に置いたのである。

では、次に、「協力する力」を重視した基礎ゼミナールAが、2020年度においてどのような対応を迫られたのか、事実を追っていきたい。

3. 対面式からオンライン式へ

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行と短期大学の対応

2020年4月7日、当時の安倍総理大臣は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県を対象にして、緊急事態宣言を行った⁴。

緊急事態宣言を最初に解除することを決定したのは5月14日であり、その時すでに前期授業は開始されていた。東京・神奈川・埼玉・千葉・北海道の5都道県では継続され、城西短期大学が所在する埼玉県で解除されるようになったのは5月25日、およそ90日ぶりに全国で解除されることになった。

こうした緊急事態宣言には、学校を休校させたり対面授業を禁じたりする法的強制力はなかった⁵。しかし、全国の大学・短期大学は、入学式を中止したり始業日を遅らせたり対面授業の代わりにオンライン授業を実施したりして、感染防止のための対策を取った。

城西大学および城西短期大学は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、2020年度前期の対面授業を中止し、前期始業日を5月11日（月）として、以降オンラインによる授業を実施すると決定した⁴。

(2) プレゼミ実施まで

2020年度は入学式もなくなってしまったため、新入生とのファーストコンタクトは、教員側から個別にアプローチするしかなかった。そのため、短期大学事務室より自分の基礎ゼミナールに所属する学生の名簿をもらい、その名簿の順番に学生本人の携帯電話に電話をかけ、繋がらなかった場合には、学生の自宅へ電話をして学生本人とコンタクトと連絡を取り始めることとなった。以下の手順は表3にある通りである。なお、このマニュアルは、短期大学の村越純子准教授からアドバイスを得て作成し、実施した。

表3 新入生との面談とプレゼミへ導くための方法

1. 「基礎ゼミナール A (三國)」の Teams を作成する。
2. その Teams に、ゼミ 1 年生 18 名の登録をする。tb20…… (学籍番号) @josai.ac.jp のメールアドレスを入力することで登録する。
3. 学生の携帯電話に電話 (繋がらなかった場合は自宅に電話) して、本人と連絡を取る。
4. 教員の携帯電話の番号、メールアドレス、LINE・ID を教え、何か困ったことがあったらいつでも連絡するように伝える。
5. 本人の LINE・ID を聞き出し、ゼミのグループ LINE に登録する。
6. 本人に、web クラスへのログイン方法、大学のメールアドレスのチェックの仕方、自分のメールアドレスへの転送方法を教え、登録させる。

7. 大学のホームページから Office365 にアクセスしてもらい、Teams のソフトウェア（スマートフォンの場合にはアプリ）をダウンロードしてもらう。
8. Teams 上でテレビ会議を立ち上げて、個人面談を始める。
9. 履修相談、web クラスの使い方、科目登録の方法等についてアドバイスをを行う。
10. その他、質問に応じる。

上記のような手順で、18名全てのゼミナール所属1年生へ連絡をとり、アドバイスをを行った。一人当たりにかかった時間は、最短で20分、最長で90分であった。特に、自宅に電話をした際には学生の保護者と話をする機会もあり、学生および保護者双方の不安などを聞くことができた。4月中旬に全員と連絡を取ることができ、「第1回プレゼミナール」を開催する予定を伝え、5月1日午前9:00から、Teams上でオンライン方式によるプレゼミナールを実施した。

第1回プレゼミナールでは、教員の自己紹介、webクラスへの登録方法の説明、履修登録の方法、履修の仕方の説明を行なった。また、教員の発話中には「ミュート」にすることや、授業中の質問の方法として「挙手」の仕方等の説明も行った。学生からも、特にwebクラス登録の方法に関する質問があった。

第2回プレゼミナールは、その1週間後、5月8日午前9:00から、今度はzoom上でオンラインで実施した。Teamsからzoomへの変更は、以下の表4にある点を比較考慮し、zoomを選択した。

表4 zoomがMicrosoft Teamsより優れている点（2020年4月現在）

1. zoomは、ブレイクアウトルーム機能があり、簡単に少人数のグループワークができる。
2. zoomは、外部からアカウントがなくても参加できる（Teamsではできない）。将来、外部からのゲストを招く上で有利な条件である。
3. zoomは、PCでの最大画面表示数が25人である。ゼミナールメンバー全員の様子を画面上で常に確認することができる（Teamsは、最大9人）
4. zoomは通信をするため、Teamsは共有ドキュメントを操作するため、とソフトウェアを分けることにより、それぞれの負荷を減らすことができる。

特に、「ブレイクアウトルーム機能」は、Team Work（協力する力）を重視する基礎ゼミナール活動においては必須の機能であると考えられた。

zoomの招待URLをグループLINEおよびTeamsによって事前に通知することで、ゼミ生にはzoomに入室してもらうことになったが、大きな問題もなく、第2回プレゼミ以降はzoomを使用することとなった。そして、第2回プレゼミではさっそくブレイクアウトルーム機能

使い、4人から5人のグループで簡単な自己紹介をしてもらった。授業後には、Teamsで配信される課題として「短期大学の2年間で挑戦したいこと」を書いてもらった（表5、後日のゼミで全員分を共有した）。

表5 「短期大学の2年間で挑戦したいこと（5月1日課題）」（1人の学生の回答例）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中で興味のある語学について学び多くの知識を手に入れること ・たくさんの人と関わりをもって、友達を作ること ・たくさん知識を手に入れて自分の世界を広げること ・勉強とアルバイトを両立させること ・授業においていられないよう、遅刻欠席を最小限に抑えること ・自分の将来が明確になっていないため、自分の将来を明確にすること ・後悔のないよう充実した大学生活を送ること ・生活習慣が乱れてきているため早寝早起きを心がけバランスのよい食事を摂ること ・最近ハマっている料理を極めること ・運動不足で体力が低下してきているため、ウォーキングや筋トレをして体を動かすこと ・普段買い物をする時何も考えないで物を買ってしまうことが多いので、買う前に本当に必要な物なのかを考えてから買うようにすること ・アルバイトで先輩から頼られるようになること

簡単な自己紹介から、短期大学時代の目標、将来の夢などについて情報共有し、お互いの名前を覚え始めたところで、2回のプレゼミを終えることができた。

ゴールデンウィークが明け、いよいよ新年度前期の授業が始まった。基礎ゼミナールAの開始は、5月8日（金）であった⁵。

例年、対面授業で実施してきた「協力する力」の育成を主テーマにしたゼミナール活動が、どのようにオンライン方式で実践されたのかを、次に振り返ってみたい。以下の表6は、基礎ゼミナールAでオンライン方式で実際に行った授業である。

表6 基礎ゼミナールA（1年生前期）

授業回	授業日	オンライン方式授業概要	補足
プレ1	5月1日	自己紹介、Teamsの使い方	グループLINE作成
プレ2	5月8日	2グループに分かれて、自己紹介、ゲーム	この回以降zoom使用
1	5月15日	履修登録方法の説明、ゲーム	
2	5月22日	授業の受け方、情報共有、ゲーム	
3	5月29日	グループワーク①	

4	6月5日	グループワーク②	
5	6月12日	グループワーク③	zoom 女子会
6	6月19日	就職ガイダンス・困っていることをシェアする	
7	6月26日	パワーポイントの使い方①・出身地紹介	
8	7月3日	パワーポイントの使い方②・好きなもの	
9	7月10日	エクセルの使い方①・今週のニュース	
10	7月17日	エクセルの使い方②・近況報告	
11	7月24日	動画制作①・私の一日	母校の皆さんへ依頼
12	7月31日	動画制作②・私の近所	
13	8月6日	動画発表	
14	8月28日	夏休み近況報告会	
15	9月4日	成績報告・相談会	

3. オンライン方式における工夫

(1) コミュニケーションの促進

オンライン方式の授業として、教員が事前に web クラス上等で準備した課題を読んでレポートを書かせたり、動画や資料を読ませてレポートを書かせたりする「オンディマンド型」の授業と、通常の対面指揮授業のように、決まった曜日・時間に、zoom や Teams などの通信機能を利用して実施する「リアルタイム型」の授業がある。「協力する力」を重視する基礎ゼミナールにおいては、当然「リアルタイム型」の授業を採用する必要があった。その上で、教員が一方的に学生に話しかける授業ではなく、双方向性をもった授業、あるいは学生同士のグループワーク等を多用した授業が求められた。

そこで非常に役に立ったのが、前述した「ブレイクアウトルーム機能」を持つ zoom の活用である。教員が1グループあたりの人数を決めれば、出席者をランダムに瞬時に区分けするこの機能を使うと、90分の授業の中でも複数回違ったメンバーでグループワークを実施することができた。また、教員の目が届かない点も学生同士の交流を促進する上で利点となっていた。

さらに、Microsoft Teams ではファイルを共有することができるため、ブレイクアウトルームで作られたグループメンバー同士でファイルを共有し、そのファイルにさまざまな情報を書き込むことでコミュニケーションを促進させる効果もあった。具体的には、自己紹介、地元紹介、将来の夢、等といったテーマでグループワークを実施し、お互いのコミュニケーションを深めてもらった。

(2) 情報共有

上記の共有ファイルの利用は、ゼミ生同士の情報共有も加速した。オンライン方式であると

リアルタイム型であっても、対面式のように教室での何気ない会話もできず、授業内容以外の情報が共有されにくい。そこで、授業内容以外の情報を共有するための時間を、意識的に用意した。これもブレイクアウトルームを使用してまずはグループ内で情報共有を行い、その後、全体のミーティング場面で代表的な資料を共有した。表7は、「今、どんな授業を履修していますか？その授業の様子を具体的に教えてください」という課題に対するある学生の回答である。

表7 「授業の様子」を報告するある学生の提出資料（2020年5月15日課題、一部省略）

火曜日 1限「コミュニケーション基礎英語A」中島 直樹先生

・webclassを使う。自習課題⇒統一課題⇒講義を視聴する。(Cloud Campus)⇒復習課題⇒練習問題⇒確認テスト⇒統一課題練習問題⇒統一課題確認テスト⇒書き込み課題という順番でやる。

- ・講義を見た後、しっかりと書き込み課題まで終わらせられたのでよかったです。
- ・講義で学んだことをしっかりとノートに書いたので、これからも続けたいです。
- ・目標がはっきりしているので、うれしいです。

火曜日 2限「地域連携I」藤縄 善朗先生

・Teamsを使う。自己紹介。授業の説明。power Pointでの説明。日本はなぜ新型コロナウイルスによる死者が少ないのだろうか？を考える。課題。

・埼玉県の中でも知らない場所がたくさんあるので、これからしっかり学んでいきたいと思いま。

- ・グラフなどでの説明が分かりやすかったです。
- ・グラフなどが見れないと言っていた人が全員スマホの人だったので、今回は見れましたが、そのようなことも今後あるかもしれないので、パソコンでやった方がいいと思いました。

水曜日 2限「経営学基礎I」杵淵 友子先生

- ・webclassを使う。教材を見る。
- ・まだ説明だけだったので、これから経営についてしっかり学んできたいです。
- ・来週の授業から頑張りたいと思います。
- ・初めて経営について学ぶので楽しみです。

水曜日 3限「マーケティング基礎I」草野 素雄先生

- ・Teamsを使う。授業の説明。power Pointでの説明。今後課題あり。
- ・何を学ぶのかを知れたので、これから頑張りたいと思います。
- ・マーケティング歴史を知ることができてよかったです。
- ・来週から課題提出もしっかり行いたいと思います。

木曜日 2限「コミュニケーション基礎英語C」チア・スウ・アイ先生

・webclassを使う。自習課題⇒統一課題⇒講義を視聴する。(Cloud Campus)⇒復習問題⇒練習問題⇒確認テスト⇒統一課題練習問題⇒統一課題確認テスト⇒書き込み課題の順番で取り組む。

- ・しっかりと最後まで取り組めてよかったです。
- ・講義が分かりやすかったです。
- ・練習問題を一回で合格できてよかったです。

金曜日 1限「基礎ゼミナール」三國 信夫先生

- ・履修登録の説明。出席確認。4人グループになって、自己紹介や共通点を3つ見つける。課題。
- ・グループで協力や話し合うことが好きなので、とても楽しかったです。
- ・初めましての仲間と話して緊張したけど、今後はもっといろいろな人とたくさん話していきたいです。
- ・ほかのグループでは、血液型が一緒だったというところもあったりしたので、意外と共通点があるんだなぁと思いました。

発表者が履修している科目を、自分が履修していると分かっただけで、お互いに親近感を覚えたり、履修上の質問と情報共有（課題についてなど）ができるようになり、こうしたオンライン方式の活動も学生にも好評であった。

（3）ストレスコントロール

前期授業が始まった頃は、学生も教員も体験したことのない初めてのことに臨んでいたこともあって、授業は緊張感が支配していた雰囲気であった。ただ、回数を重ねると、授業へのアクセスや課題については少しずつ慣れてきたものの、今度は不自由な学生生活へのストレスを抱えている学生が多くなっているように見受けられた。そこで、毎回の授業において、先に述べた情報共有の手法を活用し、エクセルシート等にそれぞれの「心配」や「不満」を書き込んでもらい、共有してもらうことにした。表8は、第9回授業におけるグループワーク資料の例である。特に最終項目である「心配なこと」について、グループで話し合ってもらい、心配事を共有してもらった。この不安の共有だけで、たとえ最終的に解決策が導かれなかったとしても、多くの学生が「安心した」という感想を述べた。オンライン式授業においては、対面式授業と異なり、学生の表情などから学生が抱える心配事などを読み取ることが難しいことから、各自に不安を表現してもらいそれを共有する機会が必要であろうと考えられる。

表8 喜怒哀楽の共有

A	B	C	D	E	F
	嬉しかったこと	楽しかったこと	悲しかったこと	悔しかったこと	心配なこと
A		友達とカラオケ行った	お金がもーない		これから全部出席しなきゃばい
B	4年ぶりに友達とご飯食べた。	友達とドライブしたこと。	携帯の機種を馬鹿にされた。	課題が適当になった。	進級とテストが不安
C	妹が作った飯がおいしかった	友達とカフェ巡りした	回線が悪い	回線が悪く途中で落ちる	出席がちゃんと取れているか 友達出来るか
D	車が届いた	友達と秋父に夜票を見に行った	バイトでミスった		それぞれの科目において単位が取れるか
E			長崎の雨が酷かった		実習課題が提出できてるか
F	バイトのレベルが上がった	友達と電話した	曇ってる日が少なくて気分が上がらない	パソコンの調子が悪い	コンピュータ演習のテストが受けられるか
G		サッカーをした	授業中に電源が落ちた		テストを受けるための範囲を覚えられるか
H	綺麗な夕日が見れた	友達と散歩した	雨の日が続いてる		テストできるか
I		友達とご飯食べに行った	たまに晴れる日がめちゃくちゃ暑い		進級できるか
J	中学の友達と久しぶりに会えた	友達と通出した	自分の誕生日にバイトを入れてしまった	英語の課題をやっていたら視社の課題を忘れた	期末テスト
K		友達と遊んだ	自分で髪切ったら家になった		テスト
L			バイトで長時間無駄な仕事をさせられた。		マーケティング基礎の課題を2週連続出していない。
M		友達と電話した			テスト
N	レッズが勝ったこと	友達とサッカーした	蚊に刺されまくった		テスト
O	久しぶりにラーメンを食べた	散歩	バイト先の好きな社員が異動	英語のテストの補習課題出したのに再提出	単位
P	選挙やった	友達と遊んだ	英語の課題が間に合わなかった		この後のテストができるか
Q	バックを買ってもらった	懐かしい友達に会えた	出かける日に限って雨		授業に追いつけるか
R	久々に出かけた	友達に会った	ついに文章表現で指摘された	電波が悪くてドイツ語の一部聞き逃した	先生ごとに出席の取り方が違うので出来ているか不安

4. オンライン方式による「協力する力」を育てる具体的方法

(1) Zoom ブレイクアウトルーム機能を利用した「自己紹介」

ではここからは、オンライン式授業において実際に体験した授業例を具体的に紹介していきたい。

2回実施されたプレゼминаールから行った「自己紹介」。各自に授業時間内に自己紹介文を考えてもらい、全体に、あるいはグループ内で発表してもらった(表9)。そしてその回以降は、徐々に自己紹介の情報を増やし、また、パワーポイントを共有ファイルで作成するなど、作業レベルを上げていった(表10)。また、基礎ゼミナールのもう一つのテーマである「観光」について学ぶ端緒とするために、学生が暮らす地域(もしくは出身地)の紹介をパワーポイント資料として作成してもらい、グループ内で発表してもらった(表11)。

表9 自己紹介(口頭発表)

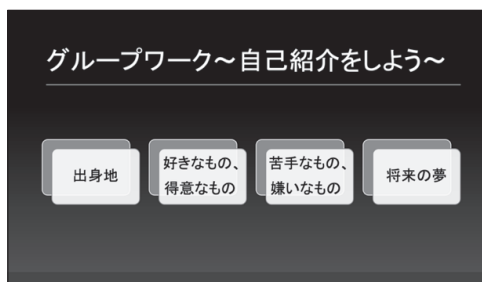
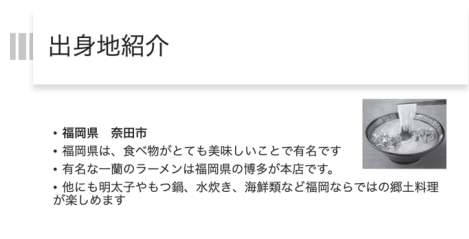


表 10 自己紹介（好きなこと）



表 11 自己紹介（出身地紹介、第7回授業）




（2）Zoom ブレイクアウトルーム機能を利用した「クイズ大会」

自己紹介と並行して実施したのが「クイズ大会」である。アイスブレイキングとしての効果もあるが、やはりゼミ生同士のコミュニケーションを進めるのに役に立った。

当初は、教員の紹介をクイズの形で رفتたり（表 12）、次にはコロナウイルス感染症が拡大していく中でどのような影響が社会に出ているのかを考えるクイズを行ったり（表 13）した。これらは、zoom のブレイクアウトルーム機能を使って少人数のグループで実施し、回答をする際にはそのグループの代表がメインルームに戻って教員に報告するようにした。問題のヒントをグループ LINE に提示するなど、学生にとってはさまざまな媒体から情報が伝えられ、その情報をグループで協力して処理し回答を導くアクティビティであった。

毎回のようクイズ（パズルの場合もあり）を出していたが、徐々にゼミ生間でコミュニケーションがスムーズに取れるようになると、今度は「考えさせる問題」の分量を増やしていった。例えば表 14 のように、「観光」をテーマにかつ同時代的なクイズを出し、全グループが回答後には実際の事例を紹介・解説し、もう一つのディプロマポリシーである「考える力」を鍛えるアクティビティも行った。ある程度の関係性がゼミ生間にできていたこともあり、授業後の感想には「難しかったけど、楽しかった」という意見も多く見られた。

表12 クイズ（教員に関するもの）



ゼミナール・クイズ

問題1：
来月10日に誕生日を迎えます。何歳になるでしょう？

問題2：
今、一番行きたい国はどこでしょう？その理由は？

問題3：
ずばり、名前は、何でしょう？

表13 クイズ（社会問題に関するもの）



表14 クイズ（観光がテーマ）

観光に関するグループワーク②

あなたはホテルの支配人です。
あなたのホテルは、コロナウイルスの影響で宿泊客が激減し、前年同月比宿泊者99%減という厳しい現実を迎えています。
収入が激減したにもかかわらず、固定費などの多額の支出は続きます。「倒産」、「売却」も考えました。
しかし、それ以外に、あなたのホテルを維持する方法について考えてください。

以上のテーマで、グループでアイデアをまとめて、代表者が発表してください。たくさんアイデアを期待しています。

（3）Zoom および Microsoft Teams を利用した「共同制作」

簡単なクイズから難しいクイズへ。それと並行して進めていったのは、グループごとの「共同制作」である。自己紹介の際には「個別制作」で行った Teams での資料作りを、さまざまなテーマに基づいてグループごとに「共同制作」をしてもらった。その際にも、zoom のブレイクアウトルーム機能を活用した。

表15は、「城西短期大学を紹介しよう」というテーマで取り組んだアクティビティである。入学後にまだキャンパスに来たことがない学生に、「母校」という意識を醸成するためにも、この活動を行なった。また、2年生に進級した際に履修する「ゼミナール A/B」では「観光」をテーマに学ぶため（卒業制作は「私の町紹介」など）、キャンパスを一つの観光地と見立てて、観光地紹介をする練習を行う目的もあった。

グループ内の学生は、短期大学について紹介する項目を書き出し、それぞれの項目の担当者を決め、その項目ごとに各自が調べたことをテキストにする、という作業を行なった。そして資料が完成すると、全体のミーティングで発表し、それぞれの発表についてまたみんなで感想を述べ合うことを行なった。

表 17 共同制作（短期大学紹介）

 <p>城西大学短期大学</p>	 <h3>歴史</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1983年 城西大学女子短期大学部として開校。 1987年 専攻科を設置。（経営実務、秘書専攻など） 1993年 専攻科が大学評価・学位授与機構に認定される。 2005年 学科を閉鎖 2005年 城西短期大学と改名。男女共学とする。 2006年 経営学部と現代文化学科を統合しビジネス学部を創設する。 	<h3>教員紹介</h3> <ul style="list-style-type: none"> 三國信夫 職名:准教授 専門分野:観光社会学、地域連携、リメディアル教育 チアスウアイ 職名:准教授 専門分野:リーダーシップ研究、言語学 藤本孝一朗 職名:准教授 専門分野:教育工学、経営学、会計学 中島直樹 職名:准教授 専門分野:アメリカ文学
<h3>13号館</h3> <ul style="list-style-type: none"> 一期は事務室があります。 二期は小売店の教室があります。 三期は大きな教室があります。 コンピューターがあるのこの階にだけあります。 	<h3>13号館</h3> <ul style="list-style-type: none"> 4階にはコンピューター室がたくさんあります。 5階には部屋があります。 6階には先生達の部屋があります。 4階のコンピューター室はオンライン授業などうられます。 	
<h3>カリキュラムについて</h3> <p>短期大学では以下の3点の能力の育成にも入っています</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高い教養と、深い専門的知識や技能を養い、地域社会や国際社会で活躍できる能力 ②社会人として働くに必要とすることが出来る専攻、判断力、表現力や連携能力 ③地域の多様な課題に対して柔軟かつ積極的に対応出来る実践的スキル <p>学生一人ひとりの個性・能力・志望に応じた教育目標を設定し、職業や資格取得など目標に沿ったユニットを履修し、組み立てて授業を実施する。</p> <h4>自由に組み上げるカリキュラム【ユニットシステム】</h4> <p>8つの専門ユニットから、履修・履修中に履修する「ユニット」を選択し組み合わせて履修する。より、高度な職業実践力や汎用性学習能力の修得、「ユニット」を履修しながらゼミナールや職業実践的学習の場を広げるとも、就活での自分の得意分野を高めることができる。</p>	<h3>短期大学生のカリキュラム一例</h3> <p>コアユニット（必修の単位） 社会で必要とされるスキルと基礎力を養う必修のコアユニット 専攻として必要な基礎的・応用的知識を学ぶコアユニット、職業実践的な能力を高めるコアユニット 履修する。コアユニットは、履修する必要がある。</p> <p>履修科目例 経営学Ⅰ、Ⅱ、A、B /ゼミナールA、B /コミュニケーション基礎英語A、B、C、D /情報学Ⅰ、Ⅱ</p> <p>その他、選修ユニット ビジネス英語、専攻実務、観光英語、英語、英語Ⅱ、会計英語、情報英語、メディアデザイン英語、情報英語Ⅱ、情報英語Ⅲ</p> <p>履修計画は、履修するコアユニットの履修を目標とする。</p>	

（4）近況報告をする動画の制作（2020年7月31日課題）

最後に紹介するのは、動画制作である。オンライン式の授業では、共有できる情報にどうしても限界がある。ゼミナールに所属するメンバーについての情報も、zoomの画面上に映る映像情報のほかは、テキストベースでしかわからない。そこで、新しい試みとして、自己紹介を兼ねる形で、各自に家の周りの様子を動画に撮影してもらい、それを各自が作成したYouTubeアカウントでYouTubeにアップロードしてもらった。そして、授業中にそれぞれの作品を鑑賞する機会を設けた。近所を散歩する様子、アルバイトに出かける道中の様子、スポーツをする様子など、各自の生活の一端が垣間見えて、動画制作と鑑賞は、ゼミ生同士のコミュニケーションの促進および相互理解には大きな効果をあげたと言える。表16はある学生の作品の一部であり、表17はそれらを鑑賞した学生の感想をまとめたものである。

表 16 自分の家の周りを紹介する動画



表 17 動画制作を視聴した感想

今日はみんなの YouTube 見たので来週までに作っときたいと思いました。
みんなの動画面白かったです！ 次はクオリティ高いのを作りたいです レポートのやり方細かく教えて頂いてありがとうございました！！
皆の動画がよく出来ていたので自分も頑張ります
他の人の動画すごかった。
今日はみんなの日常動画で意外な一面や普段の過ごし方が見れたので、面白かったです。次回も動画なので見るのが楽しみです。
みんな動画うますぎてビックリした
色々な人の動画を見て、みんな動画つくるのがうまいと感じたし、とても面白かったです。来週も楽しみです。動画をつくる楽しさを知れてよかったです。 みんな課題やテストで忙しいですが、みんなですべて乗り越えていきたいです。
みんな動画うますぎてビックリした
メンバーの個性出て面白かったです。動画編集自体は得意ですが、実写の方はやったことがなかったので上手く出来てなかったかもしれません。次は時間をかけてちゃんと作りたいと思います。来週も楽しみにしています。
他の人の動画をみてとても参考になったので、やっていきたいと思います。
みんなの日常が分かり楽しかったです
他の方のクオリティ高いなと思いました。
申し訳ございません。本日の授業を寝過ごしてしまいました。今後気をつけます。
僕は元々YouTubeが好きで良く見るので、今日はめちゃくちゃ楽しかったです。みんなより少し早く動画を出して、僕の動画を参考にしてくれてる人がいたので、少し嬉しかったです。
みんなの動画を見て印象が変わった。
みんなの日常が見れて面白かったです。

(5) 夏休み「近況報告会」の実施

8月28日に、zoomを利用してオンラインで「夏の近況報告会」を実施した。従来であれば夏休み期間中は文字通り休みであり、授業や面談を実施することはなかった。しかし、コロナウイルス感染症拡大という特殊状況下で入学後に一度もキャンパスに入れないという環境にあった新入生に、2ヶ月間まったく連絡を取らずにいることは、ゼミ担当教員として不安が大きかったため、夏休みのちょうど中間地点くらいの8月末に、zoomを利用した「近況報告会」を実施することにした。当日は、18名中13名が参加してくれた。Teamsのエクセルシートに近況報告を記入(表18)して情報を共有したのち、ブレイクアウトルームを活用して、雑談を楽しんだ。

また、何も無い2ヶ月であると後期授業開始までに勉強意欲が薄れてしまうことを心配し、「夏休みチャレンジ動画」を課題とした。これは、夏休み中にどんなことでも「今までやってみたいことがない」ことにチャレンジする様子を動画に記録する、という課題であった。

表 18 夏休み近況報告一覧

A	B	C	D
	夏のニュース 第1位	夏のニュース 第2位	夏のニュース 第3位
A			
B			
C	友達と海行った	家族で軽井沢までドライブした	BBQした
D	遊びに行きすぎて走行距離が700キロ超	川でBBQした	初めて富士急
E	スポーツジム行った	黒髪にした	
F	群馬に行った	バイトを頑張った	洋服を買った
G	富士急ハイランドに行った	おじいちゃん家の畑で草むしりをした	教習所に通っている
H	免許取った	友達と川に行った	バイト
I			
J			
K	海に行った	カラオケに行った	
L			
M	色々食べた		
N	家族で黒山三滝に行った	友達とサッカーをした	一人でトレーニングしていた
O	運転免許取得	海に行く。	ポケモンセンターに行った。
P	海に行った	BBQした	川に行った
Q	ディズニーに行った	友達と美味しいもの食べた	バイト頑張った
R	久々に中学の時の友達と遊んだ	有言実行で神社巡れた	ツイッター初めてみた

5. おわりに

「協力する力」を重視する基礎ゼミナールAは、オンライン方式において以上のような工夫によって実施された(学生の反応について、表19)。特に、zoomのブレイクアウトルーム機能を活用できたことは、グループワークを円滑に実施するために非常に重要なことであった。ま

た、Teams 上でドキュメントを共有し共同作業できたことも、学生間のコミュニケーションを促進させ、「協力する力」を身につけるために大いに役立ったであろう。2021 年度以降、対面式の授業がスタンダードになったとしても、こうしたオンライン式の授業で活用できた機能・方法は、従来の授業形式においても存分に活かすことができるであろうし、また活かさなければいけないだろう。

その一方で、またいつこのような特殊な社会環境下に置かれるかはわからないので、オンライン式の授業が再び採用されなくてはならない日に備えて、より充実したオンライン式授業のための研究・準備に邁進しなければならないだろう。

さらには、ビジネス総合学科においては、「協力する力」以外の、「前に進む力」や「考える力」を育てるオンライン式授業の研究・開発にも力を注がなければならないだろうと考えている。今後の課題としたい。

表 19 オンライン式の授業を受講した学生の反応

設問6 オンライン講義を受講して、満足した講義科目を記述してください（最大7科目まで） また、選んだ理由を教えてください				
教員名	科目名	履修登録者数	コメント数	理由
三國信夫	コミュニケーション英語	16	3	グループワークがあったりするから
三國信夫	コミュニケーション英語	16	3	分かりやすいし英文を読む機会が多くて楽しいから
三國信夫	コミュニケーション英語	16	3	分かりやすいし英文を読む機会が多くて楽しいから、
三國信夫	ゼミナール	23	9	音声聞き取りやすく授業内容が分かりやすい
三國信夫	ゼミナール	23	9	先生と直接メッセージのやり取りができて安心
三國信夫	基礎ゼミ	18	4	グループワークを実施している。
三國信夫	基礎ゼミ	18	4	グループ活動がとても楽しかったから。
三國信夫	基礎ゼミ	18	4	楽しく授業がうけたから
三國信夫	接客英語	95	27	PPT が分かりやすく進め方も参加しやすいから
三國信夫	接客英語	95	27	zoom でやっているためわかりやすい
三國信夫	接客英語	95	27	ある程度の英語を話せるようになりたかったから
三國信夫	接客英語	95	27	オンラインでもグループワークをやったり実践的な授業でとても楽しいから。
三國信夫	接客英語	95	27	オンライン授業ならではのグループワークがあり面白い。

三國信夫	接客英語	95	27	きちんと発音したりペアワークなどのアクティビティがあるので飽きない
三國信夫	接客英語	95	27	グループワークなどが楽しいから
三國信夫	接客英語	95	27	グループワークなどが面白い
三國信夫	接客英語	95	27	グループワークなどもやらせてくれて楽しい授業が受けられるから
三國信夫	接客英語	95	27	ためになる（実際に使うことができる）
三國信夫	接客英語	95	27	とにかく楽しい
三國信夫	接客英語	95	27	わかりやすいから。
三國信夫	接客英語	95	27	音楽で学んだりグループワークなど楽しく授業が出来る工夫がありとてもいい。
三國信夫	接客英語	95	27	曲を使った授業などをしていて楽しいし分かりやすかったから
三國信夫	接客英語	95	27	授業が楽しい
三國信夫	接客英語	95	27	授業が楽しいから
三國信夫	接客英語	95	27	授業が工夫されている
三國信夫	接客英語	95	27	授業が分かりやすく楽しいから
三國信夫	接客英語	95	27	授業内容が面白くて毎週楽しみ
三國信夫	接客英語	95	27	消極的な私でもペアがすぐに決まるのですごくやりやすかったから
三國信夫	接客英語	95	27	生徒に寄り添った実践的な授業をしてくださったから
三國信夫	接客英語	95	27	先生の活気が伝わってきてこっちも頑張ろうと思えるから。
三國信夫	接客英語	95	27	前回の復習を授業内で必ずやるのが自分のためになることとグループワークなどが楽しい
				復習を必ずやるから分かりやすかった
三國信夫	接客英語	95	27	分かりやすいし長文の英語を読む機会が多くて楽しいから
三國信夫	接客英語	95	27	分かりやすいし長文の英語を読む機会が多くて楽しいから、
三國信夫	接客英語	95	27	毎回復習をやることで身につくペアワークが楽しい

設問7 オンライン講義を受講して改善してほしい講義科目を記述してください（最大7科目まで） また、選んだ理由を教えてください				
教員名	科目名	履修登録者数	コメント数	理由
三國信夫	該当科目なし			

注

1. 城西大学のホームページに掲載されている。
2. 松本麻友子・森山幹弘 2012 大学生による学生支援活動が社会人基礎力，職業キャリア・レディネスや学生生活充実度に及ぼす影響 南山大学紀要「アカデミア」人文・自然科学編(4)，83-94 を参照。
3. 井芹まい・河村茂雄 2016 大学生の社会人基礎力の獲得タイプと自我同一性との関連 早稲田大学大学院教育学研究科紀要(23)，61-71 を参照。
4. 4月23日に更新されたホームページのお知らせ「前期授業開始日と新入生オリエンテーション日程について」により告知された。
5. 短期大学の始業日（5月11日）に先駆けて実施した。
6. 城西大学および城西短期大学が実施した「オンライン講義に関する学生アンケート（6月1日から6月10日の期間に実施）による。第1回から第4回までのオンライン式の授業を受けた学生が回答した。設問6及び7の回答が担当教員に開示された。この表のデータは2020年6月18日に短期大学事務室から送られてきたデータを加工せずに掲載している。